

プレスリリース

2019年8月14日
国境なき医師団 (MSF)

国境なき医師団、イタリア・マルタ両国に対し、救出した移民・難民の上陸許可を要請

国境なき医師団 (MSF) と市民団体「SOS メディテラネ」は 8 月 13 日、イタリアおよびマルタの海事当局に対し、地中海上で救助した移民・難民らが安全に上陸できる地点を両国が連携して示すよう公式に要請した。

MSF と SOS メディテラネは 8 月 9 日から 4 日間、地中海中部で海難捜索・救助活動をし、計 356 人を救出した。現在、共同運航する「オーシャン・バイキング」号に全員を乗船させている。これまでリビア当局に安全な上陸場所を要請してきたが反応はなく、次に地理的に近いイタリアおよびマルタに要請した。

国際法に準じた安全な上陸地点が必要

「生存者のなかには、リビアを通過する間、心身共に暴力を振るわれ、まだ苦しんでいる人たちがいる。リビアでは紛争が続き、大勢の移民と難民がなすすべもないまま、戦線近くの収容所に閉じ込められている」。同船で MSF のプロジェクト・コーディネーターを務めるジェイ・バーガーは話す。「すでに十分すぎるほど苦しんできた人たちだ。この人たちを迅速に上陸させられる安全な場所を求める」

オーシャン・バイキングが救助を行った 4 日間、リビアの共同救助調整センター (Joint Rescue Coordination Centre) は、同船からの再三の連絡には一切応えず、生存者をリビアに連れ戻すよう繰り返した。これは国際法違反であり、MSF と SOS メディテラネは、いかなる事情があろうとも、生存者をリビアに連れ戻さない。

リビア当局が国際法の要件を満たす安全な上陸地点を示さないため、同船は現在北に向かい、MSF と SOS メディテラネは、欧州各国の当局に対し、国際法に従って、乗船者全員が上陸できる安全な場所を直ちに示すよう求める。

生存者の大半が強制労働や拷問を経験

「細心の注意を払って状況を判断し、救助活動にあたった。海事当局は何ら情報共有することはなかった」。同船で海難捜索救助活動コーディネーターを務めるニック・ロマニウクは話す。「無線連絡がとれたのは、遭難したゴムボートを見つけた欧州連合 (EU) の航空機 3 機のうち 1 機と一度だけだった。国というもの、命を救う義務をどれだけ後回しにしているか、よく示している」

生存者の大半が、移動の間に、恣意的に勾留されたり、強奪されたり、奴隷のように働かされたり、拷問に遭ったりしていた。18歳未満も103人おり、同船で無事保護されているが、うち92人は保護者がいない。

「未成年も含めて生存者らは、電気ショックで拷問され、銃身や棒で叩かれ、熱で溶けたプラスチックを押しつけられたと打ち明ける。リビアにいた間に受けた傷や傷痕がどれほど痛むか訴えている」。同船に乗船しているMSFのルカ・ピゴッツィ医師は話している。

「オーシャン・バイキング」号はノルウェー船籍の船で、海上油田業務の緊急対応と救助用大型船（ERRV）として設計された海洋補給船。事故や大勢の死傷者が出た場合の捜索救助用装備を完備しており、4隻の高速救助ボート、診療とトリアージ※、回復のための船内クリニックを備えている。救助者200人が乗船可能。MSFチームは医師1人、看護師2人、助産師1人、ロジスティシャン（物資調達、施設・機材・車両管理など幅広い業務を担当）1人、文化的仲介者1人、人道問題渉外担当1人、広報1人とチームの統括役を務めるプロジェクト・コーディネーター1人の9人が乗船する。市民団体「SOS メディテラネ」チームは12人で編成されている。

※重症度、緊急度などによって治療の優先順位を決めること

以上

本件に関するお問い合わせ先：

特定非営利活動法人 国境なき医師団日本 広報担当：舘 俊平

TEL：03-5286-6141 FAX：03-5286-6124 E-mail: press@tokyo.msf.org

 メディア向けツイッターアカウント：@MSFJ_Press